



第 3 章

将来都市構造

- | | |
|-------------|------|
| 1. 将来都市構造とは | 3- 1 |
| 2. 拠点形成の考え方 | 3- 2 |
| 3. 連携軸の考え方 | 3- 4 |
| 4. 土地利用の考え方 | 3- 5 |
| 5. 将来都市構造 | 3- 6 |

1. 将来都市構造とは

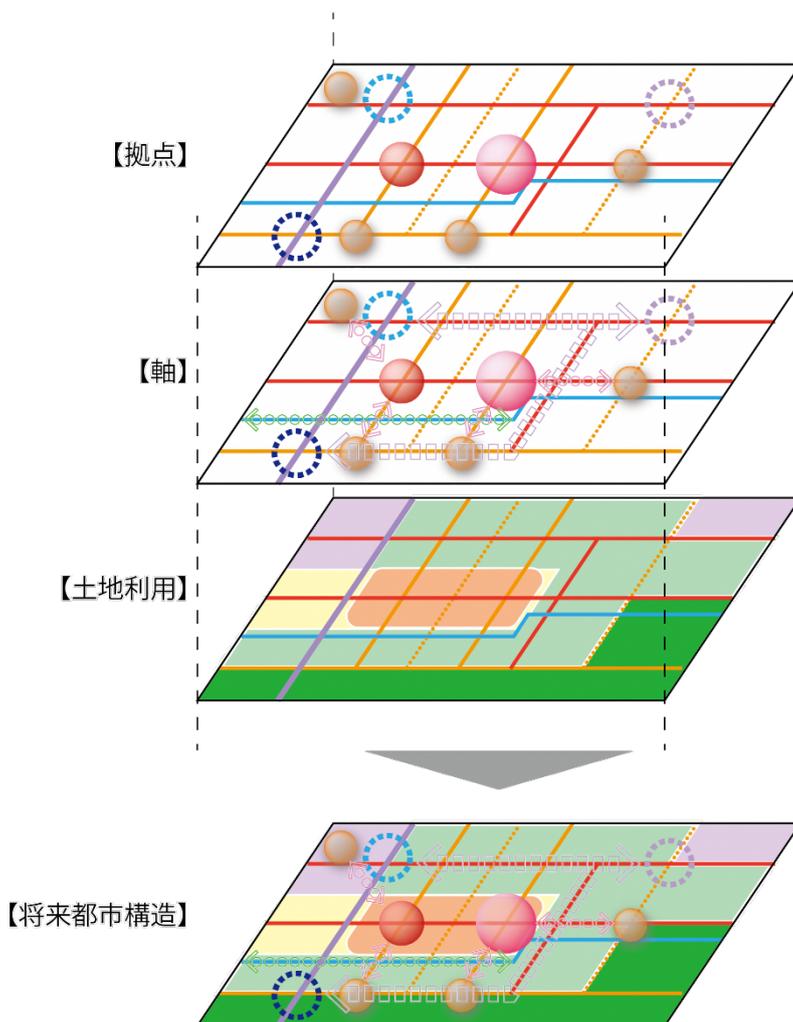
将来都市構造は、将来の都市の姿を骨格構造として表現するものであり、点「拠点」、線「軸」、面「土地利用」の3つの要素を概念的に捉えることで、効率かつ適切な都市づくりの方向を導くことを可能とするものです。

考え方としては、点を形成する場所を選定し、点を結ぶ軸を適正に配置することにより、面的な市街地の広がりを構成するものです。

《将来都市構造の要素と捉え方》

要素	捉え方
拠点	・町民の日常生活と密接な関わりを持ち、町の経済活動や産業活動を支える重要な場所として、積極的に拠点形成を行う場所を配置する役割を担います
軸	・町内に点在する拠点を連結し、町内外における拠点間連携の重要性や役割を判断することで、都市活動の経済効果を最大限高める役割を担います
土地利用	・拠点や軸の配置を元に、拠点周辺や軸上の面的な広がりを構成することによって、効率的な都市構造を形成する役割を担います

《3つの要素と将来都市構造》



2. 拠点形成の考え方

拠点形成は、健全な都市経営を図る上では重要な要素であり、町民の生活利便や町の政策を考慮しつつ、拠点の役割分担と配置バランスを適正に行う必要があります。

都市拠点は、町の中心となる市街地で、人口規模に応じた高次都市機能の導入を図る場所となるため、益城中央被災市街地復興土地地区画整理事業(以下、「復興区画整理」という。)が進められている木山地区に設定します。

地域拠点は、地域住民の生活利便施設と都市拠点を補完する施設の集積を図るため、人口密度の高い広安地域の惣領地区に設定します。

生活拠点は、市街地やまとまりのある集落地などの活力維持を図るための拠点で、適正な生活利便・交通利便を確保します。

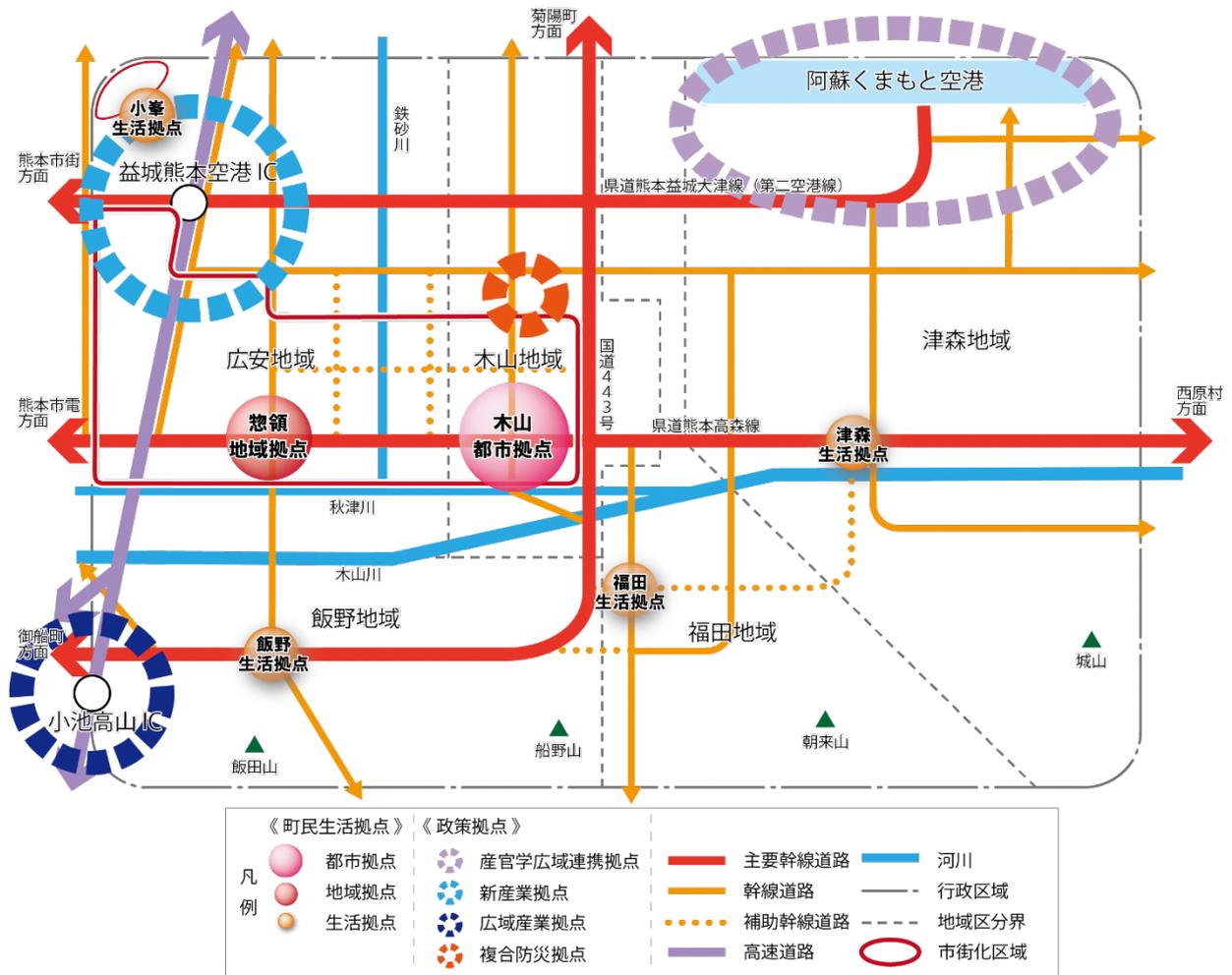
産官学広域連携拠点は、周辺市町村などと産業や学術研究などの広域的な連携を図るための拠点であり、交通利便に優れた空港周辺で拠点形成を図ります。

新産業拠点は、物流を中心とした産業活動の促進を図るための拠点であり、交通利便に優れた益城熊本空港 IC 周辺で拠点形成を図ります。

広域産業拠点は、周辺市町村などと産業の広域的な連携を図るための拠点であり、交通利便及び広域性に優れた小池高山インターチェンジ(以下、「小池高山 IC」という。)周辺で拠点形成を図ります。

複合防災拠点は、災害時の活動拠点となる既成市街地の一部区域は木山川及び秋津川沿いにあり、河川氾濫時の浸水想定区域内に位置していることから、役場仮設庁舎周辺地区を内陸部のより安全な防災拠点到位置づけます。また、都市構造上、都市拠点と産官学広域連携拠点を結ぶ都市間連携軸の交差点付近であることから、熊本県が広域防災拠点として位置づけている阿蘇くまもと空港及びグランメッセ熊本と連携を図り、防災機能と町民サービス機能を補完します。

《拠点の設定》



※町民生活拠点：町民の生活サービスや交通利便を確保するために必要とされる拠点

※政策拠点：将来的な町の姿を考慮し、町として政策的に施策展開を図るための拠点

3. 連携軸の考え方

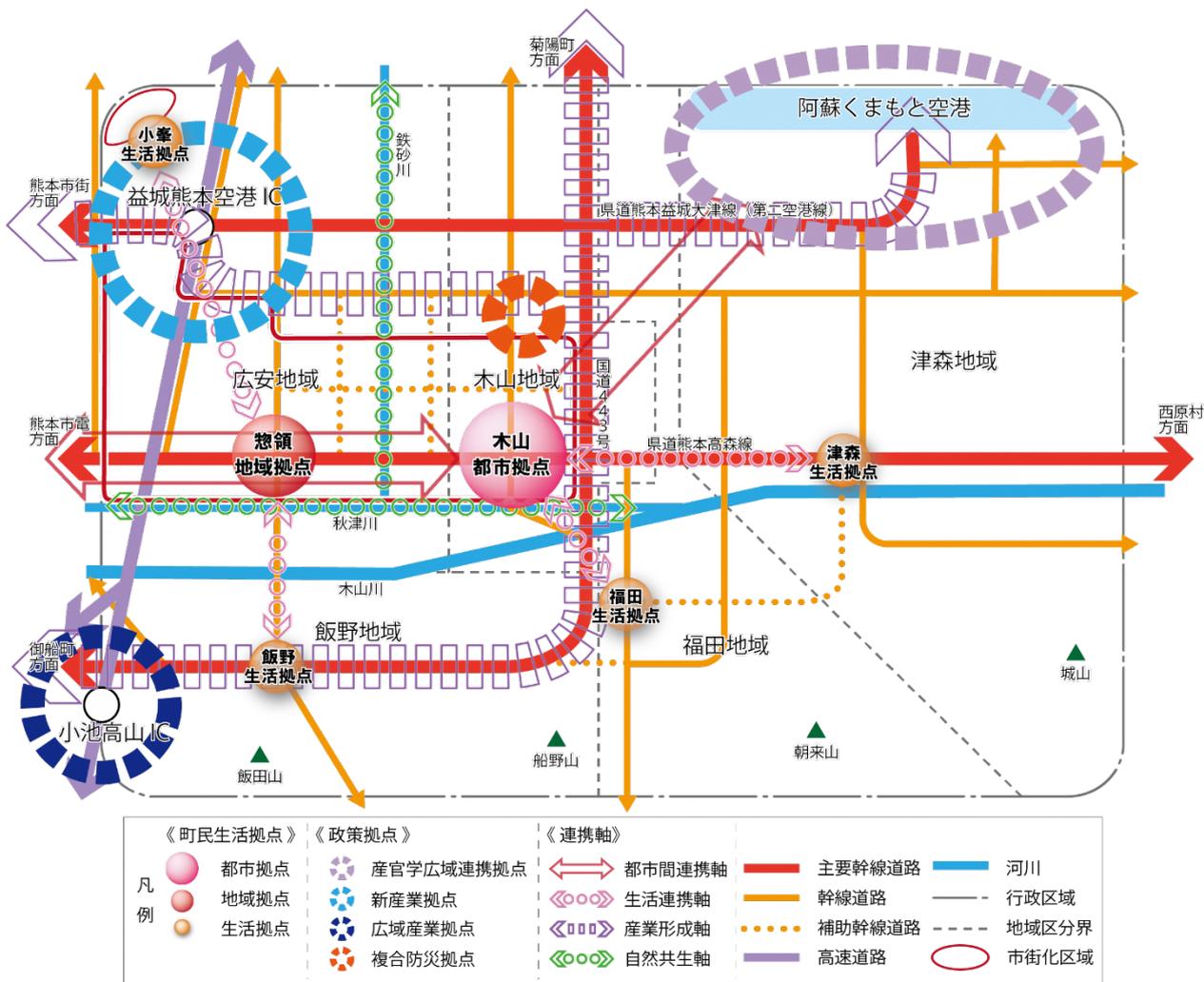
連携軸は、拠点や施設などの連携の重要度や種類を表すもので、軸上の道路整備の必要性や公共交通連携などによる有機的な連携を進めるべき軸となります。

町民生活を支える軸としては、都市間連携軸と生活連携軸の2つを設定しており、都市間連携軸は熊本市中心部と益城町中心部及び木山都市拠点と産官学広域連携拠点を結ぶ広域的な連携軸で、生活連携軸は町内における拠点間連携が必要な軸となります。

産業形成軸は、本町で産業立地を誘導すべき場所として、ICや空港を結ぶ主要幹線道路沿道に設定します。

自然共生軸は、市街地内で町民生活に潤いを与える施設整備を行う場所として、町民が身近に自然に触れ合える木山川及び鉄砂川沿いに設定します。

《連携軸の設定》

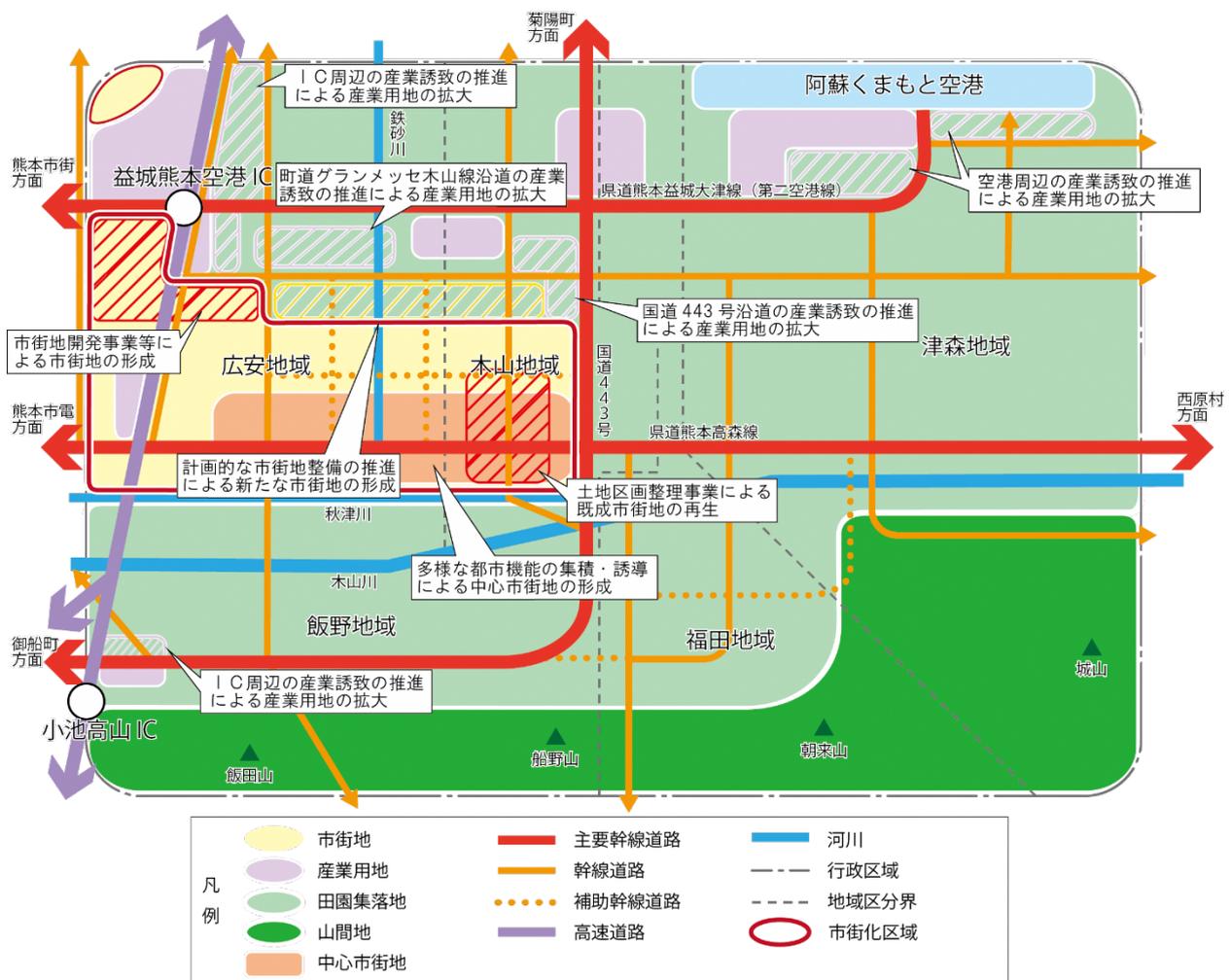


4. 土地利用の考え方

土地利用は、拠点形成や連携軸の実現、適正な市街地形成を進めていくための施策であり、将来の市街地や産業用地のあり方、農地・緑地の保全の考え方などを示すものです。

本町の将来土地利用の骨格的な考え方としては、市街化区域内未利用地の解消や新たに市街地形成を図るべき場所での計画的な市街地形成、多様な都市機能の集積・誘導による中心市街地の形成、木山地区の復興区画整理による都市拠点形成、産業形成軸におけるIC及び空港周辺の新たな産業用地の確保が必要とされます。

《土地利用の設定》



5. 将来都市構造

本町の将来都市構造は、「都市拠点」「地域拠点」「生活拠点」及び「政策拠点」を「都市間連携軸」、「生活連携軸」で有機的に結び、各拠点地区が都市づくりの基本理念や基本方針を踏まえた都市形成を図れるよう設定しています。

また、産業面においても、商業や工業の販売額・出荷額が増加傾向にあり、現況において商業地及び工業地が不足している状況にあることから、持続的な発展を支えるためには、将来都市構造を実現するための拠点形成や連携軸の有機的連携、土地利用誘導が重要となります。

こうした状況において、震災復興事業による既成市街地の再生や計画的市街地整備、産業振興を推進する受け皿として、新住宅エリア内の都市的土地利用を図ります。

《将来都市構造図》

